



20:1 ぶどう酒は嘲る者。強い酒は騒ぎ立てる者。これにおぼれる者はみな、知恵がない。

20:2 王の恐ろしさは若い獅子がうなるよう。彼を怒らせる者は、代償としてののちを失う。

20:3 争いを避けることは人の誉れ。愚か者はみな、争いを引き起こす。

20:4 怠け者は冬に耕さない。刈り入れ時に求めても、何も無い。

20:5 人の心にある計画は深い水。英知のある人はこれを汲み出す。

20:6 多くの人は自分の親切を吹聴する。だが忠実な人を見つけられるだろうか。

20:7 正しい人は誠実に歩む。彼の子孫はなんと幸いなことか。

20:8 さばきの座に着く王は、自分の目ですべての悪をふるい分ける。

20:9 だが、「私は自分の心を清めた。私は罪から離れ、きよくなった」と言えるだろうか。

20:10 異なる二種類の重り、異なる二種類の升、そのどちらも【主】は忌み嫌われる。

20:11 幼子でさえ、何かするとき、その行いが純粹かどうか、真っ直ぐかどうかを識別する。

20:12 聞く耳と見る目は、二つとも【主】が造られた。

20:13 眠りを愛するな。貧しくならないために。目を開け。そうすればパンに満ち足りる。

20:14 買う者は「悪い、悪い」と言うが、その場を離れると、それを自慢する。

お酒は楽しく感じることもあります。が、「おぼれる」ように依存したり頼りにするなら、「知恵がない」ライフスタイルです。「王」などの権力者と争

うのは「代償」を払うことになりますから、「争いを避け」て平和をつくる者となりますでしょう。

「計画」は必要です。秋の収穫のために「冬に耕」すように、人生の先のために準備を始めましょう。まだ結果は、「深い水」のように見えませんが、これを汲みだして潤うようになります。

「自分の親切」のような善行を「吹聴」しないように、すなわち自分を良い人のように偽ることはやめましょう。それは「忠実（または誠実）」なやり方ではありません。「誠実」に歩む人は、そのときは得をしていないように見えても、結局は神様が「子孫」までも祝福してください。

物事の善悪を「ふるい分ける」のは自分自身ではありません。「王」のような権威であったりします。なので「自分で」自分の善や「きよく」なったことを主張しても、人々は取り合わないことも多いのです。自分のことも客観的に見ましょ。

「二種類の重り」のようにダブルスタンダードは不正であり、主の「嫌われる」ことですから、公平でありましょう。大人の事情と言って言い訳しないで、幼子のように率直でありましょう。

私たちは耳で聞き目で見て判断しますが、それらも主によって造られたのですから、主に判断を聞くことを忘れないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

